

2 かぎの使い方・文末表現

プリント5

国語のワーク5・6年生

③ おじさんと呼ばれた男は、おめえか……と言った後に小さく舌打ちしたをして、おめえなら止めるんじゃないよ。飛び込んだじゃえ。とそっぽを向いてしまいました。徳兵衛とくべえは、あわてておじさんに手をつきます。助けてください。なんだよ。お前、今、死ななきゃならねえわけがあるとそう言ってたよな。わけがあるんだったらおじさん止めねえよ。ここで見てやるから。はやく飛び込みな。大川の方を指さしながらぶっきらぼうに言いました。

2 かぎの使い方・文末表現

プリント6

国語のワーク5・6年生

次の各文は、それぞれ常体じょうたいと敬体けいたいで書かれています。

メロスは激怒げきどした。必ず、かの邪智暴虐じゃちほうぎやくの王のぞを除かなければならぬと決意した。メロスには政治がわからぬ。メロスは、村の牧人ぼくじんである。笛を吹き、羊と遊んで暮して来た。けれども邪悪じゃあくに対しては、人一倍びんかんに敏感であった。

常体じょうたい 「だ・である調」ともも言います。

常体じょうたいの文章は読み手に強い印象を与えます。

メロスは激怒げきどしました。必ず、かの邪智暴虐じゃちほうぎやくの王のぞを除かなければならぬと決意しました。メロスには政治がわかりません。メロスは、村の牧人まきとです。笛を吹き、羊と遊んで暮して来ました。けれども邪悪じゃあくに対しては、人一倍びんかんに敏感でありました。

敬体けいたい 「です・ます調」ともも言います。

敬体けいたいの文章は読み手にやわらかい印象を与えます。

同じ文章の中で、常体じょうたいと敬体けいたいをまぜて使うことはおすすめしません。

2 かぎの使い方・文末表現

プリント7

国語のワーク5・6年生

次の各文について、常体で書かれている文は敬体に、敬体で書かれている文は常体に書きかえましょう。

① 親譲りの無鉄砲むてっぽうで小供こどもの時から損そんばかりしている。

② ゴーシュは町の活動写真館でセロを弾く係りでした。けれどもあんまり上手でないという評判でした。

③ ある日の事でございます。御釈迦様おしやくさまは極楽ごくらくの蓮池はすいけのふちを、独りひとでぶらぶら御歩きおあるになっていらっしやいました。

④ 国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。夜の底が白くなった。信号所に汽車が止まった。

2 かぎの使い方・文末表現

プリント7

国語のワーク5・6年生

⑤ 山椒魚さんしょうおは悲しみしんだ。彼は彼の棲家すみかである岩屋いわやから外へ出てみようとしたのであるが、頭が出口につかえて外へ出ることができなかったのである。

⑥ 木曾路きそじはすべて山の中である。あるところは岨そづたいに行く崖がけの道であり、あるところは数十間の深さに臨のぞむ木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。

ここにある①から⑥の文は、すべて有名な文学作品の書き出しです。次の作品に合うと思う番号を「」に書きましょう。

- | | | | |
|--|---|--|---|
| 『蜘蛛 <small>くも</small> の糸 <small>いと</small> 』芥川龍之介 <small>あくたがわりゅうのすけ</small> | 「 | 『坊 <small>ぼっ</small> ちゃん』夏目漱石 <small>なつめそうせき</small> | 「 |
| 『夜明け前』島崎藤村 <small>しまざきとうそん</small> | 「 | 『雪国』川端康成 <small>かわはたやすなり</small> | 「 |
| 『セロ弾きのゴーシュ』宮沢賢治 <small>みやざわけんじ</small> | 「 | | |
| 『山椒魚 <small>さんしょうお</small> 』井伏鱒二 <small>いぶせますじ</small> | 「 | | |